

平成25年度県立学校経営予算プレゼン事業レビューシート	
学校名	岡山県立倉敷南高等学校
事業名	倉敷「町衆」精神を育む～地域をプロデュースできる人材育成事業～
事業の必要性・テーマ	<p><b>1 事業の必要性</b></p> <p>(1) 産業、雇用状況がめまぐるしく変わる中、自分の生き方を考え、進路決定するための資質、意欲、勤労観の育成が必要になっている。</p> <p>(2) 価値観や生活の多様化を背景に、地域文化への関心を高め、生活の質を大切にする意識が高まっている。</p> <p>(3) 社会貢献に対する意識の高まりや地域課題解決への関心が広がっている。</p> <p><b>2 事業の目標：倉敷「町衆」精神の育成～地域をプロデュースできる人材の育成～</b></p> <p>倉敷は天領で、有力な町人（町衆）による市政運営が行われ発展してきた。現在、本校が取り組んでいる(1)「確かな学力の向上」、 「キャリア教育」等の事業をさらにパワーアップし総合的に推進するとともに、(2)備中県民局地域政策部協働推進室、NPO法人倉敷町家トラストや一般社団法人水辺のユニオンなどと協働しながら、「町衆」精神を引き継ぎ、新しい公共をつくり担う、市民の一員として自覚を持った生徒を育成する。</p> <p>(1)【生徒の夢や目標の実現】多様な進路への興味を引き出しキャリア形成の意欲を高める。</p> <p>(2)【郷土の発展を支える学びの推進】地域社会の問題を発見、解決しようとする意識を持ち、それを実現できる人材を育成する。</p> <p><b>3 年次ごとのテーマ</b></p> <p>(1) 1年次 地域の魅力再発見</p> <p>(2) 2年次 葦岡祭での地域課題ディスカッション</p> <p>(3) 3年次 地域ビジネスプレゼンテーション、町おこしプレゼンテーション</p>
	<p><b>1 事業推進組織・学民協働に関する共通理解の醸成【新規】</b></p> <p>(1) <b>校内プロジェクト会議の設置</b></p> <p>管理職並びに総務企画課、教務課、生徒課、進路課、キャリア教育支援室、授業力向上委員会、各年次主任等ミドルリーダーからなる横断的な連絡会議を設置し、全校教職員の共通理解のもとで、事業のスムーズな推進を図る。</p> <p>(2) <b>町衆・笹沖共育委員会との連携会議</b></p> <p>町衆連、NPO、行政等と連携し、学民協働で事業を推進するための連携会議を設置する。</p> <p>町衆連（候補）：倉敷木材（株）代表取締役・大久保憲作氏、（株）天満屋倉敷店長・大西弘昭氏、クラブン（株）代表取締役社長・伊澤正信氏、萩原工業株式会社代表取締役社長・萩原邦章氏、（株）ドルフィン・エイド代表取締役社長・福嶋裕美子氏、旅館御園専務取締役・今井真貴子氏、毎日新聞社岡山支局長・斉藤貞三郎氏</p> <p>(3) <b>倉南発「新しい公共」をつくり担う人づくり連続セミナー「町衆」育成に向けて～</b></p> <p>学校内外教職員及び笹沖共育委員会委員、地域の方々を対象に学民協働で連続セミナーを開催し、「町衆」づくりへの思い・意識の共有化を図る。</p> <p>① 第1回 今後の学校におけるキャリア教育の在り方 講師：文部科学省キャリア教育担当調査官 藤田晃之 氏</p> <p>② 第2回 ドリカムブラン・経済界と学校とのコラボレーション 講師：福岡県立城南高等学校教諭</p> <p>③ 第3回 地域振興と高校とのコラボレーション 講師：島根県立隠岐島前高等学校教諭</p> <p>(4) <b>「町衆」づくり先進校訪問・校内報告会</b></p> <p>本校教職員が、新しい公共の主体となる人づくりを行っている先進校に出向き、その方法や基底に流れる情熱に触れ、校内で共有化する。</p> <p>① 名古屋大学高等教育研究センター「特色ある大学教育支援プログラム」（特色GP）に採択された「授業デザイン力の向上」（夏目達也教授）ヒアリング・授業参観</p> <p>② 鳥取県立倉吉東高等学校「国際高校生フォーラム」、 「チューター制度」視察</p> <p>③ 京都市立堀川高等学校「人間・科学探究科」視察</p> <p><b>2 倉敷「町衆」事業【新規】</b></p> <p>(1) <b>1年次（地域の魅力再発見）</b></p> <p>① 長期休業中を利用し、自分の住む地区の良さを再発見し、かつ課題を深めるためのインタビューを実施する。</p> <p>② NPO法人倉敷町家トラストが中心となり、今年9月に倉敷で実施される「全国町並みゼミ倉敷大会」への参加やボランティア活動を行う。</p> <p>③ ポスターセッション等を通じて、自分の意見を的確に伝える訓練を行う。</p>

# 平成25年度県立学校経営予算プレゼン事業レビューシート

## 事業の概要・ 進め方

### (2) 2年次（葦岡祭でのディスカッション）

- ① 1年次に明かにした地域の良さや課題を基に、商工会議所やNPO等と連携し、ディスカッションを行う。
  - ② 地域を巻き込んだラーニング・カフェを創設し、多くの生徒に発表の場を提供する。
- ### (3) 3年次（ビジネスプレゼンテーション、町おこしプレゼンテーション）
- ① 葦岡祭でのプレゼンテーション大会（ディベート選手権）で地域の課題を考える。
  - ② コンペ方式でプランを発表する。

### (4) 次代を担う「町衆」育成連続講座

「なぜ大学に行くのか」「どうすれば心に響くプレゼンができるか」など、次代を担う「町衆」になるための連続講座を開催し、将来を見据えた進路意識を高める。

- ① 香川大学アドミッションセンター 准教授 山崎裕正 氏
- ② 島根大学入学センター 副センター長・教授 田中均 氏
- ③ 鳥取大学入学センター 准教授 山田貴光 氏
- ④ 同志社大学社会学部産業関係学科 教授 浦坂純子 氏
- ⑤ ミチナス代表 長江由美子 氏

## 3 社会貢献活動【新規】

### (1) 小学生（5・6年生）への夏休み宿題教室（小学校出前教室）7月

本校生徒（希望者）が近隣の小学校に赴き、夏休みの宿題を素材に学習支援を行い、人間的成長を図る。

### (2) 南高&吉岡川周辺クリーン大作戦 5月・10月

### (3) 生徒会活動・部活動等による社会貢献活動 等

## 4 キャリア教育

### (1) 総合的な学習の時間・ホームルーム活動

- ① 総合的な学習の時間における進路希望別大学教員によるミニ講演会の実施（1年次）
- ② キャリア講演会の実施  
外部の専門的な人材（キャリア・アドバイザー）による講演会とキャリア相談を実施する。  
（1年次：1回，2年次：2回，3年次：1回，希望者：5回，計9回）
- ③ 岡山大学キャリア開発センターと連携し、大学生、大学院生との交流会を実施

### (2) 学校設定科目「キャリアⅠ」の実施（2年次）

- ① 大学教員や社会人講師を招いて、進路実現に向けて意欲が持てる講演会の実施（12に分かれている各講座ごとに、大学教員講義2回，社会人講義2回実施）
- ② 希望進路に関連するテーマを生徒自身が設定して調査・研究を行う「課題研究」の実施（年度後半に10時間程度設定）
- ③ ジョブ・シャドウイングとしての「職場訪問」活動【新規】  
関係機関・事業所訪問を通じて、将来、希望する職業について理解を深める。  
その際、「キャリアⅠ」ノートによる事前学習による計画書作成，記録・報告書の作成，冊子の作成に加え、生徒の活動をより効果的なものにするために、当日、関係機関・事業所の関係者等との意見交換会を実施し、より職業理解が深まるようにする。

### (3) その他【新規】

- ① 岡山大学キャリア開発センター主催の課外活動リーダーズ合宿に参加し、交流を通して生き方について主体的に考える機会とする。（1・2年次）
- ② 次のような活動への参加を通し、日本の良さやふるさと倉敷の良さを認識させる。  
・岡山大学のグアム熱帯農業インターンへの参加 ・倉敷市国際交流協会の事業参加  
・倉敷商工会議所との連携，青年部等の事業への参加 ・外務省高校講座の活用

## 5 授業力（学力）向上

### (1) 「授業力向上」に関する教員研修

- ① 教員向け研修（講演）会（年1回）  
先進的・実践的な研究を進めている専門家を東京などから招へいし研修（講演）会を実施し、「授業力向上」についての共通理解を図る。また、他校、中学校等にも参加を呼びかけ、高校間の意見交換や中・高連携を図る。

### (2) 研究・公開授業及び研究・協議の実施（年1回）

5教科を中心に研究授業を公開するとともに、他校教員と研究・協議を行い、県全体の授業力向上に資する。

## 平成25年度県立学校経営予算プレゼン事業レビューシート

	<p>(3) 教員同士の授業参観（年2回：各約3週間） 教科の枠を超えて授業参観し、優れている点・改善すべき点を具体的に指摘し、優れた点は全校で共有化する。</p> <p>(4) 生徒授業アンケートの実施（年2回） 生徒から出された改善すべき点や要望については検討し、授業改善に生かす。</p> <p>(5) 「授業力」に関する一斉教科会議（年2回） 授業参観や生徒授業アンケートの総括・分析、先進校視察等の報告など、情報の共有化を図り、協議の結果は運営委員会等でフィードバックする。</p> <p><b>6 成果の普及・発信【新規】</b></p> <p>(1) 「キャリア課題研究」及び事業成果発表（県下、全国への発信）</p> <p>(2) 「笹沖共育委員会」「経済同友会」等での生徒による成果発表・共有化、具体化への提言</p> <p>(3) 成果収録冊子の刊行</p> <p><b>7 評価【新規】</b></p> <p>(1) 生徒の意識調査の実施 年度初めと年度途中の2回にわたり、「町衆精神」振り返りシートを実施し、生徒の学校生活への取組姿勢と学習意欲等の意識をクロス分析し、次年度の事業の修正・改善を図る。また取組ごとに生徒の相互評価や自己評価も行い、本事業の推進に活用する。</p> <p>(2) 第三者評価の実施 学校評議員会議、学校関係者評価委員会、校内自己評価委員会での学校自己評価に加えて、外部有識者による第三者評価を加えることにより、次年度につながる改善を図る。 評価者：兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 氏（年間10回） 岡山大学キャリア開発センター副センター長 三浦孝仁 氏（年間3回） 同教授 教授 坂入信也 氏（年間3回） リクルートワークス研究所 主任研究員 辰巳哲子 氏（年間3回）</p>												
達成目標	<p>【「生徒の意識調査」から】以下の4つの視点において調査を行い、各80%以上を目指す。</p> <p>1 「志」の視点—どのように社会に役立ちたいか。</p> <p>2 「夢」の視点—どのような職業に就きたいか。</p> <p>3 「目標」の視点—そのためにはどのような学びが必要か。どのような学びのできる大学進学を目指すのか。</p> <p>4 「生活」の視点—そのためには高校時代の1日1日を大切に生きる姿勢と実践があるか。</p> <p>なお、1～3の視点については年に2～3回、4の視点については各取組ごとに実施する。</p>												
実績と成果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">【生徒の変容】フィールドワークやラーニングカフェで働く大人にインタビューすることで、倉敷を知り、身近に触れた。このことから「社会貢献」への思いを強くし、そのためには「学ぶ」ことが大切であるという「志」の涵養に繋がった。そのことは、「岡山まちの夢学生アイデアコンテスト」等への応募・受賞や倉敷市長への提言といった形で現れた。</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">事業 達成率</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">120%</td> </tr> <tr> <td>【教員の変化】ポスターセッションや課題研究発表に備えて生徒のプレゼンテーション能力向上や問題発見・解決能力、思考力の向上を図る必要から、教員自身の授業改善・授業改革が行われ、言語活動が重視されたものとなった。また「先進校訪問」や「人作りセミナー」を通して教員の意識改革が進んだ。</td> <td style="text-align: center;">事業 達成率</td> <td style="text-align: center;">120%</td> </tr> <tr> <td>【学校組織の変革】多様な進路選択を生徒が主体的に行えるようキャリア教育を再構築した。また1年次の進路指導と2年次の「キャリアI」の接続や「キャリアI」の内容の抜本的改革を行い、今まで以上に実践的なものとなった。また進路指導面においても「志」を重視した指導への転換を図ることができた。</td> <td style="text-align: center;">事業 達成率</td> <td style="text-align: center;">120%</td> </tr> <tr> <td>本事業を通して生徒は程度の差はあれ、失敗体験を含む得難い経験を積んだ。ここから得られたものは、21世紀を生き抜く力として、これからのシチズンシップに欠かせないものと考えている。また学校全体として取り組んだ結果、その影響はあらゆる面の見直しに及び、既存の指導システムの転換を迫るものとなった。</td> <td style="text-align: center;">総合 達成率</td> <td style="text-align: center;">120%</td> </tr> </table>	【生徒の変容】フィールドワークやラーニングカフェで働く大人にインタビューすることで、倉敷を知り、身近に触れた。このことから「社会貢献」への思いを強くし、そのためには「学ぶ」ことが大切であるという「志」の涵養に繋がった。そのことは、「岡山まちの夢学生アイデアコンテスト」等への応募・受賞や倉敷市長への提言といった形で現れた。	事業 達成率	120%	【教員の変化】ポスターセッションや課題研究発表に備えて生徒のプレゼンテーション能力向上や問題発見・解決能力、思考力の向上を図る必要から、教員自身の授業改善・授業改革が行われ、言語活動が重視されたものとなった。また「先進校訪問」や「人作りセミナー」を通して教員の意識改革が進んだ。	事業 達成率	120%	【学校組織の変革】多様な進路選択を生徒が主体的に行えるようキャリア教育を再構築した。また1年次の進路指導と2年次の「キャリアI」の接続や「キャリアI」の内容の抜本的改革を行い、今まで以上に実践的なものとなった。また進路指導面においても「志」を重視した指導への転換を図ることができた。	事業 達成率	120%	本事業を通して生徒は程度の差はあれ、失敗体験を含む得難い経験を積んだ。ここから得られたものは、21世紀を生き抜く力として、これからのシチズンシップに欠かせないものと考えている。また学校全体として取り組んだ結果、その影響はあらゆる面の見直しに及び、既存の指導システムの転換を迫るものとなった。	総合 達成率	120%
【生徒の変容】フィールドワークやラーニングカフェで働く大人にインタビューすることで、倉敷を知り、身近に触れた。このことから「社会貢献」への思いを強くし、そのためには「学ぶ」ことが大切であるという「志」の涵養に繋がった。そのことは、「岡山まちの夢学生アイデアコンテスト」等への応募・受賞や倉敷市長への提言といった形で現れた。	事業 達成率	120%											
【教員の変化】ポスターセッションや課題研究発表に備えて生徒のプレゼンテーション能力向上や問題発見・解決能力、思考力の向上を図る必要から、教員自身の授業改善・授業改革が行われ、言語活動が重視されたものとなった。また「先進校訪問」や「人作りセミナー」を通して教員の意識改革が進んだ。	事業 達成率	120%											
【学校組織の変革】多様な進路選択を生徒が主体的に行えるようキャリア教育を再構築した。また1年次の進路指導と2年次の「キャリアI」の接続や「キャリアI」の内容の抜本的改革を行い、今まで以上に実践的なものとなった。また進路指導面においても「志」を重視した指導への転換を図ることができた。	事業 達成率	120%											
本事業を通して生徒は程度の差はあれ、失敗体験を含む得難い経験を積んだ。ここから得られたものは、21世紀を生き抜く力として、これからのシチズンシップに欠かせないものと考えている。また学校全体として取り組んだ結果、その影響はあらゆる面の見直しに及び、既存の指導システムの転換を迫るものとなった。	総合 達成率	120%											

## 平成25年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

今後の課題	<p>高等学校段階の学習内容のある程度の理解・定着を基礎にポスターセッションに取り組ませる方が効果的である。したがって次年度以降は、ポスターセッションは教科横断的な学習の成果として2年次での取り組みとしていき、1年次では課題発見力の向上や発表に向けての言語活動の充実に重点を置きたい。また、事業を行いながら教員間の共通理解を図ったが、さらに円滑な理解を図ることができるよう改善の余地があった。生徒の取り組み時間の確保においても、部活動などとの調整において課題が残った。さらに、取り組みや成果発表が地元中学生や地域住民に伝わっていないとの指摘を学校評議員からいただいている。広報活動の充実も課題である。次年度においてはこれらの反省を活かし、生徒一人ひとりが自らの夢を実現するために強い志を持ち、そのための目標を設定して意欲的な学校生活が過ごせるよう、いっそう効果的な実施へと繋げていきたい。</p>	
学校自己評価	5段階評価	5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
	次年度以降の継続性	<p>次の改善を行い、今年度以上に進化した形で当事業を継続する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 21世紀型能力の開発を目標に、基礎学力の向上にとどまらず、「新しい公共」を担う市民としての幅広い人間力の向上を目指す。</li> <li>2 地元経済界、NPO法人、大学等との協力をさらに進め、学民協働による地域課題解決を通してのグローバル人材を育成する。 (例えば、大原美術館とのコラボ企画として「地域まるごと教室」の実施などを協議中)</li> <li>3 創立40周年を期に、倉敷南高等学校の新たなスクール・アイデンティティ(SI)として育てていく。</li> <li>4 県学校経営予算(重点事業枠予算)や県教育弘済会等に申請し、来年度の事業予算確保に努めている。</li> </ol>
主管課評価	5段階評価	5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
	見直しの余地改善提案等	<p>「わが町倉敷」をテーマに倉敷“町衆”精神を育むため、1年次生から3年次生までの全員で多様な取組が系統的に実施されており、普通科進学校におけるキャリア教育のモデルを示すことができている。</p> <p>地域と連携した様々な体験を通して、課題解決に向けた取組を行ったり、その成果を発表したりすることで、生徒が社会とのつながりを実感することができ、このことが、コミュニケーション能力を育成するとともに、進路意識や学習意欲を高めることができている。</p> <p>今後も、地域と連携しキャリア教育を推進するとともに、その成果の普及に努めていただきたい。</p>
委員評価	5段階評価	⑤ ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
	指摘・指導・助言	<p>学校と地域との連携を主眼においたかに見える本テーマにおける取組は、生徒と教職員が学校をあげて諸課題に取り組む中で、①普通科進学校におけるキャリア教育、②体験活動の評価、③社会貢献活動、④地域課題の解決、⑤教職員の意識改革、といった他校のモデルとなりうる優れた研究開発を進捗させたと言える。</p> <p>特に、事業を実施していく中で出てきた課題に対して即座に対応し、修正・改善を図るなど、細かなPDCAサイクルが年間を通して機能しており、個々の取組を体系的な教育活動への枠組に位置づけて省察し、意味づけを行ったことで期待を大きく上回る成果をもたらしたと判断する。今年度の実施状況を踏まえ来年度以降の展望までも明確に決められており、次年度以降への継続性も確立されている点も高く評価したい。</p> <p>今後は、①生徒の部活動との両立など活動時間の確保・調整、②1～3年を見通したカリキュラム体系の確立、③アンケートによる意識調査に加えて参加者のヒアリングなどによる評価のためのルーブリックの開発、④設定すべき達成目標とその検証方法などを検討していただき、上記のモデルとしてさらなる発展をめざして、次年度以降もさらなる発展的な取組が進むことを期待したい。</p>